

青藍会会報

第101号

令和5年6月



徳島大学医学部医学科同窓会

共感

心のつながりを

大切に

西岡安彦



徳島大学大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野
教授 西岡 安彦



勝浦川の沈下橋

古びた地味な橋ではあるが、激流にも流されることなく、常に地元の人の役に立っている。

撮影 伊 東 進（医学部14期）

青藍会総会開催のご案内

日 時: 令和5年7月17日(月)海の日 10時30分～16時00分

場 所: ハイブリッド開催(青藍会館大会議室・Zoomによるリモート)

- 1 議 事 (10:30～12:30)
- 2 昼休憩 (12:30～13:30)
- 3 2022年度青藍会賞の発表及び授与 (13:40～)
- 4 2022年度青藍会賞受賞講演 (13:50～14:20)



和 田 佑 馬 先生(医学部56期)
徳島大学病院外科(消化器・移植外科)特任助教
演題「消化器癌に対する診断精度向上と再発転移の予測」
座長 島 田 光 男 先生

- 5 学術講演 (14:30～16:00 1人40分 質疑応答含む)

岡 田 賢 先生(医学部45期)
広島大学大学院医系科学研究科小児科学教授
演題「感染症と戦う宿主免疫」
座長 漆 原 真 樹 先生

和 泉 唯 信 先生(医学部41期)
徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床神経科学分野教授
演題「縁」
座長 荒 瀬 誠 治 先生

リモートでの参加をご希望の方はメールにてご連絡をお願いいたします

青藍会事務局 seiran@tokushima-u.ac.jp

なお、会場へお越しいただくことも可能ですので、同封のハガキにてご連絡をお願いいたします

「かかりつけ医」とは

青藍会兵庫支部長

小 川 達 司（医学部31期）

会員の皆さんこんにちは。この度、榎林先生の後任で兵庫支部長を引き継ぎました31期の小川です。兵庫支部は平成26年に設立、業務のほとんどを榎林先生が一人で担っておられたので、今後は業務分担等とDXを取り入れたいと考えています。

さて、3月初時点でコロナの第8波も治まりつつあります。当院の発熱外来は2020年11月より診療時間最後の30分～1時間枠をとり1日4～8名診ています。2023年2月末で1455名に検査を施行し731名・50.2%の陽性率でした。特に第7波の時はひどく、8月1日は103件も受診希望の電話がありました。8月5日より市行政で検査キットの配布が始まり多少改善しましたが、2023年1月中旬までは日に30件ほど受診希望の電話がありました。当区は500件ほど医療機関がありますが、診療所で発熱外来を公表しているのは30件と少なく、かかりつけ医とは何なのかと思います。日本医師会が2022年4月に「国民の信頼に応えるかかりつけ医として」を発刊しました。その中でかかりつけ医の機能として「①健康相談、検診、母子保健、産業保健等の社会的活動や警察医等の行政活動に協力②災害時の医療支援活動に協力③365日国民の健康を守るべく診療体制を医師同士で連携」とあります。普段、通院中の患者が発熱のため診療を断る診療所が多くありました。ビル診で発熱患者の動線を分けられず止む無く診療を断った場合もあるでしょう。しかし時間帯を分けて発熱患者を診察する手はないでしょうか。今後、政府は見直し法案で新型コロナの5類以降後は正当な事由がない限り診療を拒めないとの文言を入れるようです。国民の目から見ると、真っ先に予防注射を打った医師群が、コロナ患者を診ないのは違和感を感じるのではないのでしょうか。

ここで、国民の言うかかりつけ医は「体調が悪くなった時に受診する医師」、医師会のかかりつけ医は「継続的に患者の健康問題に対応し必要に応じて専門医・病院や介護、福祉につなぐ医師」で双方に乖離がみられ、少しでもその距離を縮める努力が必要と思われれます。なかなか、一筋縄にはいかない事象ですが

「国民の健康を守る」プロフェッショナル集団として頑張っていきましょう。

目次

○題 字	西 岡 安 彦
○写 真	伊 東 進
○青藍会総会開催のご案内	
○巻 頭 言	小 川 達 司
○前青藍会会長桜井えつ先生が日本医師会赤ひげ大賞受賞	1
「赤ひげ大賞」を受賞して	桜 井 え つ 2
桜井えつ先生【第11回日本医師会赤ひげ大賞受賞】を祝して	荒 瀬 誠 治 3
桜井えつ先生【第11回日本医師会赤ひげ大賞受賞】祝辞	齋 藤 義 郎 3
○青藍会の助成活動	
青藍会奨励賞の授与	5
徳島大学病院卒後臨床研修センターの活動報告	岩 田 貴 6
○青 藍 会 賞 募 集	7
○新 入 生 歓 迎 会	8
○支 部 紹 介	12
○支 部 だ よ り	
北 海 道 支 部	石 丸 裕 晃 14
東 京 支 部	上 田 茂 14
近 畿 支 部	播 村 佳 昭 15
兵 庫 支 部	檜 林 勇 16
○特 別 寄 稿	
近況報告	青 野 敏 博 18
○会 員 通 信	
打診, 触診, 聴診	渡 辺 圀 武 20
心身医学の視点および展開	板 東 浩 20
卒後40周年に名医を目指す	本 田 壮 一 22
徳島大学医学部・薬学部ワンダーフォーゲル部合同 OB 会報告	久 我 隆 一 23
松本淳治先生に句誌で遭遇	駒 木 幹 正 24
俳 句	小 谷 雄 二・零 俊 一・駒 木 幹 正・真 鍋 正 広 25
○書 籍 紹 介	
「くすしの冥利―開業五十周年に際して―」	國 重 昭 郎 26
○徳島大学の動き	
徳島大学大学院医歯薬学研究部定年退任教授挨拶	鶴 尾 吉 弘 27
	有 澤 孝 吉 28
	安 倍 正 博 28
	金 山 博 臣 29
	谷 憲 治 29

徳島大学医学部創立80周年記念事業について	西岡安彦.....	30
○徳島大学 MD-PhD コース同窓会報告	荻野広和.....	31
○青藍会学生広報委員紹介	磯村勇斗.....	32
	加藤胡都菜.....	32
○青藍会の動き		
青藍会出身教授一覧.....		33
医学部69期卒業生（令和5年3月卒業）		34
会員の異動.....		35
物故者.....		37
青藍会会費納入状況.....		38
会費納入のお願い・会費の納入について・振り込みについて.....		39
事務局からのお願い（個人情報の取り扱いについて・なりすましのニセ電話について 様々な情報をお寄せください）		40
○投稿規定.....		41
○第40回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ.....		42
○編集後記.....	広報大塚秀樹.....	43

前青藍会会長桜井えつ先生が日本医師会赤ひげ大賞受賞

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社の主催で、地域医療に長年貢献している医師を顕彰するために2012年に創設された。

今回、第11回赤ひげ大賞に、前青藍会会長である桜井えつ先生が選ばれた。長年地域医療に貢献したこと、妊娠や出産でキャリアが中断しがちな若い女性医師が働きやすい環境整備や、性差医療の推進に注力したことなどが評価されての受賞となった。3月3日に東京都内で表彰式が行われた。

地域医療への貢献

住友医院は亡父住友純氏が終戦後、無医に近い状態であった現在の場所に開院した。桜井先生は徳島大学医学部を卒業後、国立高知病院、阿南医師会中央病院（現阿南医療センター）などの勤務を経て、1983年から住友医院で勤務している。4、5世代にわたって家族みながかかりつけという患者も多く、家庭の事情を配慮し生活の伴走者として、各人にとって最適な治療を心がけている。小さい頃から知っている地域の患者は「えっちゃんが医者になった」と慕って信頼してくれた。現在も夫の桜井紀嗣氏と共に地域に密着した診療を続けている。

女性医師支援の活動

- 1999年 日本医師会女性会員懇談会が発足し中国四国地方枠で参加
- 2000年 徳島県医師会報編集委員として「女性医師のページ」を創設
- 2001年 徳島医学会「医療における男女同権～21世紀女性医師の立場からの提言～」
- 2002年 全国に先駆けて徳島県女性医師部会が発足、会長を務める
- 2003年 徳島大学病院「女性のための相談外来」や徳島県男女共同参画プラザの女性医師の健康相談開設に携わる
- 2004年 「徳島県的女性医療提供体制の今後」
- 2005年 講演「女性医師のキャリア向上のために～現状と今後～」
シンポジウム「徳島県における女性医師の就労状況の現状と今後」



受賞の挨拶をする桜井えつ先生

- 2006年 日本医師会男女共同参画フォーラム「徳島におけるドクターバンクの状況」
シンポジウム「生涯いかそう あなたの才能とキャリア」
- 2007年 徳島医学会シンポジウム「女性医師と生涯教育」、「女子医学生・研修医をサポートする会」、日医男女共同参画フォーラム「女子医学生や研修医などをサポートする会のモデル事業について」報告など数多。
同年、女性医師部会は男女共同参画委員会に発展。若い世代に将来を託し、県医師会活動からは引退。
- 2012年 臨床内科医学会「地域医療の中の女性医師～過去・現在そして未来～」

1999年に男女共同参画社会基本法が制定されたが、当時も「育児や家事は女性が担うべき」という意識が根強く、結婚や妊娠を機に離職する女性医師が多かった。3人の子育てをしながらキャリアを継続させてきた桜井先生は、医師不足が社会問題となるなかで、離職する女性医師が多い状態に矛盾を感じ、女性医師の活躍の場を広げるべく、発信を続け、後進の女性医師が歩む道を踏み固めてきた。

また、2016年から2020年まで女性として初めて青藍会会長を務められ、新しい支部の設置や財政状況の改善、徳島大学医学部学生の教育支援に積極的に取り組まれた。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※ 前青藍会会長桜井えつ先生が日本医師会赤ひげ大賞受賞 ※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

今回の選考にも医学部の学生さんが加われ、次代を担う世代に目が向けられました。表彰式でも学生さんたちといろいろ話をさせていただきましたが、一人前の医師になるためには、多くの方の協力・支援が必要です。公費もたくさんいただきます。そのことを忘れず、可能な限り医師として働き続けることが社会全体・地域医療への恩返しではないかと伝えました。私も「頭と」健康の許す限り、地域の患者さんへの診療を続けて行きたいと思っております。

最後になりましたが、青藍会会長在任中にはいろいろとお世話になりありがとうございました。青藍会が益々発展することを願っております。

桜井えつ先生【第11回日本医師会赤ひげ大賞受賞】を祝して

青藍会会長

荒瀬 誠 治（医学部20期）

本年3月3日、桃の節句に桜井えつ先生（前青藍会会長）が「日本医師会赤ひげ大賞」を受賞された。嬉しい限りで、青藍会会員あげて心からお祝い申し上げます。受賞理由は「地域住民医療に献身的に取り組み続けられたことに加え、女性医師が働きやすい環境整備や女性医療の推進に尽くされた」ことのように、詳しくは齋藤医師会長からの御祝辞をお読みいただきたいです。

「赤ひげ診療譚」は小石川養生所の新出去定（赤ひげ）が主人公ですが、去定の下で医師を目指し日々苦闘し前進する若き保本登の青春・立志編とも読めます。桜井先生が新出去定を目指されたのか保本を目指されたのかお聞きしたいものです。時代は江戸、登場医者は男ばかりで女性医師は出てきません。この状況はかなり長く続き、昭和50年代でも大学医学部のクラスで女性は一桁が普通でした。そのような中で医師を志し、思いを果たすべく次々と行動に移し、成就してこられた桜井先生は凄いファイターでした。その姿は今も変わらないように見受けられます。桜井先生が青藍会会長の時には、一度目標を定めると、最短距離を進まれました。現会長の私は桜井会長が引いたレールをどこまで伸ばすかだけを考えれば良く、感謝するほかありません。兎にも角にも、桜井先生本当に、本当におめでとうございます。



選考委員の学生さんたちと一緒に

桜井えつ先生【第11回日本医師会赤ひげ大賞受賞】祝辞

徳島県医師会会長

齋藤 義 郎（医学部16期）

令和5年3月3日「第11回日本医師会赤ひげ大賞」表彰式・レセプションがパレスホテル東京において開催され、前青藍会会長の桜井えつ先生が受賞された。表彰式では、5名の受賞者が松本吉郎日本医師会会長から賞状、近藤哲司産経新聞社長から記念品が贈られた。岸田文雄内閣総理大臣からお祝いの言葉が述べられた。

レセプションでは、加藤勝信厚生労働大臣のご挨拶、乾杯の後、桜井先生は秋篠宮皇嗣・同妃殿下そして選考委員の向井千秋、檀ふみ、ロバートキャンベル、河合雅司、医学生（岩手医科大学地域枠で入学した学生4名）等とご懇談・盃を交わされた。

赤ひげのモデル（山本周五郎作「赤ひげ診療譚」）は江戸時代中期（8代将軍吉宗）に貧民救済施設である小石川養生所で活躍した小川篁船である。今年は小石川療養所発祥から300年である。

前青藍会会長桜井えつ先生が日本医師会赤ひげ大賞受賞

桜井先生の受賞は「40年以上、地域のかかりつけ医として昼夜を問わず、町内外の住民の医療及び疾病予防に献身的に取り組み続けてきた。農山村地域の特性の為、山奥などへの訪問診療をされている。また、小学校の校医や幼稚園の園医として、子供たちの健康増進に努めるだけでなく、学校保健の普及向上に貢献した。又、徳島県医師会役員として、女性医師が働きやすい環境整備や性差を考慮した女性医療の推進の為男女共同参画委員会を開設した。今その成果は目覚ましいものがある」を評されたものと推察する。

美しい着物姿で堂々として表彰を受けられたこの栄えある式典に同席できたことは、徳島県医師会会長として、高校時代よりの同級生として感極まるものがあった。

本当におめでとうございます。



齋藤義郎先生と桜井えつ先生



第11回 日本医師会 赤ひげ大賞受賞者

尾崎真理子先生、石島正嗣先生、桜井えつ先生、藤野孝雄先生、大久保直義先生

青藍会の助成活動

青藍会奨励賞の授与（2022年度医学科3年次医学研究実習発表会優秀者表彰）

2022年度医学科3年次医学研究実習発表会優秀者10名に青藍会奨励賞を授与しました。

青藍会奨励賞を受賞して

来 島 空 良

この度は、青藍会奨励賞に選出していただきありがとうございます。約9ヵ月間の研究室配属において、ご指導くださった臨床薬理学分野の先生方と薬学部生の皆様、そして共に研究に励んだ同期に心より感謝申し上げます。今後は研究室で培ったスキルを勉学に活かしたいと思います。

福 原 佑樹乃

この度は、青藍会奨励賞を授与していただき誠にありがとうございます。この賞をいただいたのは、私個人の力ではなく、ご指導していただいた先生方のおかげであると痛感しております。今後も立派な医師になれるよう、日々勉学に精進して参ります。本当にありがとうございました。

吉 武 愛 哉

この度は青藍会奨励賞という身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。

臨床薬理学分野の皆様が大変親身に接していただき、とても多くのことを学び、研究の大切さを少しは理解できたのではないかと思います。また、それと同時にとても楽しい時間を過ごすことができました。賞を頂いたことを励みに、今後も精進したいと思います。

高 麗 王

青藍会奨励賞を受賞することができて嬉しいです。配属先である先端酵素学研究所分子生命科学分野の皆様のおかげで楽しく充実した実習期間となりました。実習は終了しますが、今後とも研究を続けていきたいと思っています。



青藍会賞募集

2023年度青藍会賞募集

2023年度青藍会賞を下記のとおり募集します。

本賞は青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために、若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1. 応募資格

2023年12月末現在で42才未満の青藍会正会員
但し、2023年度までの会費完納入者であること。

2. 審査対象

2019年1月から2023年12月までの研究業績を対象とします。
なお、選考では徳島大学で主として行われた研究であることを重視します。

3. 応募締切

2024年1月15日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4. 応募手続

以下の書類を青藍会事務局へ提出して下さい。（原本とそのコピー 10部をご用意下さい）

1. 申請書（別紙様式1）
2. 履歴書（略歴）（別紙様式2）
3. 主指導者の推薦状（別紙様式3）
4. 原著論文（2019年1月～2023年12月末に発刊された原著論文；通し番号をつけ、年代の近い順に記載し、主たる論文3編には通し番号に○をつけること。主たる論文は筆頭著者の論文に限定しない。応募者には下線をひくこと。）（別紙様式4）
5. 主たる論文3編の要旨；申請者が論文の研究においてどこに寄与したかの記載を含めること。（各400字程度）（別紙様式5）
6. 主たる論文3編の別刷り（コピー可）
7. 競争的資金の獲得状況（2019年1月～2023年12月末までに獲得した研究費の名称、研究期間、研究題目、直接経費の研究費総額。研究代表者の資金に限る。）（2023年12月末時点で採択が決定したものも含む）（別紙様式6）
8. 今後の研究の展望（800字程度）（別紙様式7）

なお、同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位をつけること。

申請書等の各様式は青藍会事務局（seiran@tokushima-u.ac.jp）にご請求下さい。

5. 選考

青藍会会長から委嘱された選考委員会が行います。

6. 受賞者数

原則一名

7. 青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金100万円の目録を青藍会総会開催日に授与します。

研究助成金は受賞者あてで教室への委任経理金（奨学寄附金）とする。

8. 受賞講演

青藍会総会開催日当日、受賞講演を行っていただきます。（30分程度）

お問合せ先 青藍会事務局 TEL 088-633-7109（内線2601）
seiran@tokushima-u.ac.jp

新 入 生 歓 迎 会

日時：令和5年4月6日（木）12：40～13：20
場所：医学部第二臨床講堂

桜の花びらが舞う青空の下、青藍会主催の新入生歓迎会が開催された。新入生112名（男子67名女子45名）は、アスティとくしまで挙行された令和5年度徳島大学入学式の後、蔵本キャンパスに移動し、晴れやかな表情で会場に到着した。小西竹生事務長の司会のもと、青藍会副会長坂東智子先生の祝辞に続き、酒井陽子先生、森岡久尚先生より先輩からの歓迎のことばが述べられた。最後に青藍会会長荒瀬誠治先生よりお言葉をいただき、終始和やかな中、盛会裡のうちに終了した。



令和5年度新入生への祝辞

歓迎の言葉

青藍会副会長

坂 東 智 子（医学部25期）

新入生の皆様、この度は徳島大学医学部医学科へのご入学おめでとうございます。これまでの努力が実って夢を果たした皆様、そしてこれまで皆様を支えられてきたご家族の方々にも心よりお祝い申し上げます。

私は約50年前、1973年の春に徳島大学に入学しました。医師への憧れだけで入学し期待と不安の入り混じった状態で学生生活が始まったように覚えております。卒業後は旧第一内科に入局し、先輩医師の厳しくも丁寧なご指導のおかげで内科医として勤めてまいりました。勤務医、診療所院長など経験後、現在健診クリニックに勤めながら、訪問診療、医師会活動にも携わっております。

最初に青藍会についてお話しします。徳島大学医学部医学科は、徳島医学専門学校から始まり現在の医学科まで発展していますので、青藍会は、徳島で医学教育を終えられた人々の同窓会組織です。設立の趣旨は、「会員相互の親睦・懇親を図るとともに、学術の向上をもって母校の発展に寄与する」という

ものです。会員数は6500人を超え、北は北海道から南は九州まで全国14か所に支部組織を持ち、先輩後輩との交流が各支部で盛んに行われております。海外でご活躍の先生方もおられます。

青藍会の名前の由来は、紀元前3世紀の思想家荀子の言葉「青は藍より出でて藍より青し」からきており、本会設立当時の先輩方がお持ちだった「臨床、研究の両面でそれまでの先輩の業績を凌駕、前進し母校のために尽くす後輩の輩出を期待する」という思いがこもっています。よって青藍会会員である学生、医学科への協力支援を行っております。教育活動経費の助成、医学科4年生には白衣授与、手術室で着用する術衣寄贈、3年次に医学研究実習ポスター発表優秀者に青藍会奨励賞授与や青藍会・医学



新入生歓迎会

います。医師の資格を取得した後に、どのようなキャリアを歩みたいのか、是非とも意識していただきたいと思います。地域枠で入学された方も、臨床医と研究を両立することも可能であると思います。臨床に従事する傍ら、地域住民を対象に、研究をして論文を出版されている先生も多くいます。

次に、出身校の絆、青藍会の絆は大変貴重なものです。

私も、長年東京に住んでいまして、その時には青
藍会東京支部に所属をしていました。

支部の事務局をしていて、年1回の支部総会にも東京にいるときは毎年出席していました。育児と両立できる病院を探している先生がいらっしゃって、他の先生が知っている病院の紹介や、専門外の患者さんの紹介先の確保などの話をされていました。母校から遠く離れても会員間で助け合いが行われているのを見てきました。

また、私も助けられました。

岐阜県庁と三重県庁に行った時には、県庁の医療政策のトップとして地域医療を運営していかなくてはなりません。そこで、東海地方で活躍されている青藍会の先生に大変お世話になりました。大学教授、県精神科病院協会の会長、保健所長、へき地診療所の所長などの先生に、地域の医療の特徴やキーパーソンを紹介いただきました。

このように、出身校の絆は切っても切れない大変強いものだと思います。

若い間は大先輩と話をするのはエネルギーがいる
と思います。可能な範囲でよいと思いますので、絆
を大切に、保っていただきたいと思います。

私から伝えたいことは以上です。

それでは健康に留意して、充実した学生生活となることを祈念いたします。

今日は、本当におめでとうございます。



書籍紹介



このコーナーでは、正会員、名誉会員及び学内関係者の著書を紹介することとしています。専門家向けの書籍および一般向けの書籍を紹介していきたいと考えています。自薦、他薦どちらでも結構です。青藍会事務局までお送り下さい。なお、掲載については広報委員会にご一任下さい。



「くすしの冥利—開業五十周年に際して—」

(発行元：株式会社 美巧社、2022年9月9日発行)

著者 國重昭郎 (医学部6期)



冥利とは神仏のたまけである、又は知らない間に神仏からさずかるしあわせ。
本書は、坂出市医師会誌、青藍会会報、ライオンズクラブ誌等に寄稿した短文集です。青藍会事務局に置いて下されば幸いに存じます。

國重昭郎 (医学部6期)

徳島大学の動き

徳島大学大学院医歯薬学研究部定年退任教授挨拶

教授退任にあたって思うこと

顕微解剖学分野

鶴 尾 吉 弘（医学部28期）

令和5年3月31日をもちまして徳島大学を退任するにあたり思うことを述べさせていただきます。退任する最後の月の3月16日（木）に最終講義を第2臨床講堂にて17時から18時の1時間ではありましたが行うことができました。新型コロナウイルス感染症が令和元年の年末から拡大したため以後3年度にわたって遠隔授業となり、当初の遠隔授業での講義・実習を実施する際には必死で音声入り動画を日程に間に合うように作成し、この3年間は大学の講義室において対面で学生を相手に講義を一度も出来ませんでした。3年ぶりの講義が私の最終講義となりました。最終講義の演題は「解剖学教育と研究を振り返って」としましたが、内容は、これまでの生き立ちのうち、主に徳島大学に入学してからの出来事を振り返りながら、多くの写真を入れて、自分の思いを所々でお話させていただきました。最終講義の準備を進めることで、ぼんやり見てきたこれまでの人生をより鮮明に自分なりに捉えることができたように思います。学生時代では、ラグビー部に所属してスクラム要員として活動して西医体に参加したこと。卒業後の大学院生の時に、ノーベル医学生理学賞で有名なスウェーデンのカロリンスカ研究所へ留学したこと。大学組織での活動については、徳島大学での8年間を通しての附属図書館での活動（館長、分館長、副館長）、医学部学生委員会の委員長としての活動、ならびにクリニカルアナトミー教育・研究センター（副センター長）、医学部情報セキュリティ管理委員会（委員長）の活動や、運営でお世話になった方々へのお礼を述べました。教育では、助手、助教授、教授として昭和63年から35年間解剖学一筋に教育に当たってきました。大黒教授の下での肉眼解剖学、石村教授の下での顕微解剖学の研鑽、平成10年に和歌山県立医科大学に教授として赴任してからは、肉眼・顕微解剖学に加えて発生学、平成27年に母校の徳島大学に戻ってからは、さらに神経解剖学において講義・実習の教育に携わってきました。その間、医学研究実習の学生の指導も行いました。研究については、大学卒業後、41年間にわたり、形態学手法を用いて、人体の制御に関わる研究を行うことができました。このような経歴を通じて、私から学生や若い人達に伝えたいことをお話ししました。学生時代のラグビー部での活動からは、運動部を通じて培った友情やつながりは貴重であり、卒業して何年経過しても、このつながりは継続すること。最後まで、やり通すことが大切であることを伝えました。解剖学教育では、一見難しい構造であっても、機能と関連づけて形を理解すると、本当の形が見えてくるようになり解剖学の学修が楽しくなることを伝えました。研究面では、教育にも通じる場所ではありますが、固定概念に固執せずに自由な発想で結果を捉えることが大切であることを伝えました。教科書で確立されたものとして記載されていることでも、本当はそうではないこともあることにも触れました。さらに、医師としての高邁な倫理観を持ち豊かな人間性と協調性を育むように努めてまいりました。これまで、解剖学という分野を通じて、自分なりにいろいろと考えて、こうすれば良いかなと考えながら講義や実習を進めてきましたが、医学を目指す若い学生が、これから進む将来に対して目標を立てる際の手助けになっていれば幸いです。徳島大学医学部が将来のある若い人々の力で支えられてこれからも益々発展することを願っております。最後に、徳島大学でこれまでお世話になりました方々にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

退任のご挨拶

予防医学分野

有 澤 孝 吉

本年3月末を持ちまして徳島大学を退職致しました。2004年3月の着任でしたので、任期は約19年となります。最初の3年間は、スタッフを採用し、体制を整える期間でした。2008年から2013年までは、生活習慣病の前向き研究である、日本多施設共同コホート（J-MICC）研究徳島地区のベースライン調査を行いました。県内の健診施設や職場等で100回を超えるフィールド調査を行い、非常に忙しい5年間でした。また、環境省主催のダイオキシン類の人への蓄積量調査においてデータのとりまとめを担当することになり、血中ダイオキシン類の総毒性等量とメタボリック症候群との関連を含む11編の論文を発表しました。2014年からはJ-MICC研究の追跡調査を継続し、徳島地区、全国のデータを用いて糖尿病、がん等に関連する論文を発表してきました。2020年からの3年間は、COVID-19の汎流行があったため、講義はすべてオンラインとなり、閉塞感が強い期間でしたが、J-MICC研究班から毎年10編以上の論文が発表されるようになった時期でもありました。教育では、社会医学関連3分野の一つとして3年生の卒前教育を担当し、大学病院では院内がん登録の仕事をさせていただきました。

末筆ながら、教育・研究の機会を与えていただきました徳島大学医学部の皆様に深謝申し上げますとともに、先生方のご健勝と青藍会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

定年退職のご挨拶

血液・内分泌代謝内科学分野

安倍 正 博 (医学部30期)

令和5年3月末をもちまして定年退職いたしました。青藍会の皆さま方からはこれまでに血液内科および内分泌代謝内科両診療科の教育、研究、診療におきまして、多大なるご厚情を賜り深く感謝致しております。また私は平成27年から6年間徳島大学病院卒後臨床研修センター長を拝命しておりましたが、青藍会からは毎年センターの活動に手厚いご支援を賜りまして併せて心よりお礼を申し上げます。私は徳島大学の卒業で、卒業後徳島大学第一内科に入局し、学生時代から長きに渡り青藍会にお世話になりました。また教授に就任した折には、青藍会支部から講演の機会を多く与えていただき、各地の支部講演会にて学生時代の知り合いと久しぶりに話ができたことを楽しく、そして懐かしく思い出されます。この3年間は新型コロナウイルスの影響でキャンパスや病棟での対面の教育や部活が制限されるなど、同期の学生同士や先輩と後輩の繋がりが分断されましたが、徳島大学医学部医学科同窓会である青藍会が同窓生の共通の心の故郷として我々を繋げてくれるものと思います。これからも居心地のよい、我々の心の故郷として青藍会が益々ご発展することを祈念しております。ありがとうございました。

退任のご挨拶

泌尿器科学分野

金 山 博 臣（医学部28期）

令和5年3月末日をもちまして泌尿器科学分野教授を退任いたしました。昭和57年3月に徳島大学医学部医学科を卒業し41年になります。大学および関連病院で研修後、平成元年4月に大学に戻り、香川教授の指導のもと、研究、診療、教育に邁進し、平成16年4月に教授に就任しました。その後19年間、泌尿器科学分野、医学部、そして病院の発展のため務めてきました。この間、多くの先生が入局し、泌尿器科医として活躍していただいています。また、この間、泌尿器科診療は大きく変化し、手術は開腹手術から内視鏡手術・腹腔鏡手術、さらにロボット支援手術へと進歩しました。徳島大学病院では平成11年に四国で最初にダビンチを導入し、その後、関連病院の多くにダビンチが導入され、全国に先駆けてロボット支援手術を普及できました。

青藍会では、会計幹事を担当させていただいています。教授就任間も無くの頃、東京支部に呼んでいたことがあります。東京支部では上田先生、濱本先生をはじめ、多くの先生が活発に活動しています。確か会場はパソナのビルの中で、会の後でビルの中の水耕栽培の野菜を見学した覚えがあります。こんなことができるんだと驚きました。同級生の岡先生、糟谷先生はじめ、多くの会員が活動されています。九州支部長の武井先生は一級上の先輩で、泌尿器科医です。今年も徳島に講演に来ていただきます。近畿支部長の播村先生は同級生です。コロナの拡大直前、2020年2月に講演に呼んでいただき、近畿在住の同級生とも歓談し旧交を温めることができました。青藍会の皆さんとの交流は楽しい時間になります。総会にも大勢の会員に参加していただきたいものです。

教授は退任しますが、今後も青藍会の発展に少しでも貢献できればと思っております。ありがとうございました。そして、今後ともよろしく願います。

教授退任を迎え41年間を振り返って

総合診療医学分野／徳島大学病院総合診療部

谷 憲 治（医学部28期）

1982年に徳島大学医学部医学科を卒業し、これまで41年間の医師生活の大半を過ごした徳島大学を2023年3月に退官いたしました。私のこれまでの医師人生を2つに分けるとすると、前半の呼吸器・膠原病内科（第三内科）時代（1982年～2007年9月）と後半の地域医療・総合診療時代（2007年10月～2023年）となります。徳島大学医学部医学科を卒業後は、当時の第三内科に入局し、高知市立市民病院や徳島県立三好病院での勤務も含め呼吸器疾患領域の診療、教育、そして研究（特に間質性肺炎におけるプロテアーゼの役割）に務めました。1995年からの米国NCIでの研究留学を契機に、帰国後はリウマチ・膠原病疾患領域に主体を置いたことで、幅広い内科診療を学ぶことができました。そういう経緯もあって、2007年に徳島大学医学部に新設された県の寄附講座である総合診療医学分野（当時は地域医療学分野）に特任教授として就任することになりました。専門医集団である大学の中で、地域医療教育を実践するということはどういうことか、いろいろ悩みながらも、地域医療を学べるのは地域医療現場しかないであろう、ということで徳島県立海部病院を中心とした徳島県南部の医療機関や徳島県内の地域医療機関での地域医療実習を開始しました。この実習においては徳島県内の地域医療に貢献しておられる青藍会の皆様には大変お世話になっております。新型コロナウイルス感染によってしばらく休止しておりました現地での地域医療実習も本年2月より再開しておりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。私は、退職後も、体力と知力の許す限り医師としての診療業務は継続していくつもりであり、青藍会の皆様方にはお世話になることも多いかと思いますが、よろしく願いいたします。長い間大変お世話になったこと深く感謝いたします。

徳島大学 MD-PhD コース同窓会報告

徳島大学 MD-PhD コース第8回近況報告会 / 同窓会のご報告

荻野 広和 (医学部56期)

医学部56期, MD-PhD コース3期生で現在徳島大学病院 呼吸器・膠原病内科に所属しております荻野広和と申します。青藍会の皆様方には平素より本コースの発展のためご支援いただいておりますこと、この場をお借りし心より御礼申し上げます。本年3月4日(土)に徳島大学 MD-PhD コース第8回近況報告会 / 同窓会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

Zoom を用いたオンライン形式で開催し, MD-PhD コース同窓生8名が全国各地より参加しました。MD-PhD コース卒業後, 県外に活躍の場を移す同窓生も多く, 徳島大学学内に在籍する同窓生が一時的に減少している状況を受け, 今後の同窓会の運営や活動内容について意見を交わしました。本年度は上記を含めた諸般の事情により「魅力発信セミナー」の開催は見送らせていただきました。

徳島大学医学部医学科では4年前より新たな入学制度である総合型選抜「四国研究医型」が導入されました。このプログラムではMD-PhD コースへの進学もしくは卒後3年以内に本学大学院へ進学することを確約条件とし, 研究医 (Physician Scientist) を養成することを目的に設立されています。また, 学生に「研究」の意義や魅力を早期から体験してもらうことを目的に, 数多くの研究室の協力のもと「Student Lab」を設置し, 希望学生は授業の空き時間を利用し研究活動を行っております。このような総合型選抜で入学した学生あるいは Student Lab 活動を行う学生を支援する目的で「Lab 部会」を設置し, 微生物病原学分野の野間口雅子教授のリーダーシップのもと, 学生支援のほかにも高大連携セミナーなどを通じて高校生への広報活動などを行っております。MD-PhD コースの同窓生である我々もこれまでLab部

会のメンバーとしてこの活動に携わってまいりました。MD-PhD コースおよびLab 部会がこれまで独自で行ってきた活動の一部には, その目的が共通している部分もあり, 今後は両者がより協力を深めることで, 魅力発信セミナーを含めた活動を継続し, 研究活動の意義・魅力を次世代へ発信し続けていきたいと考えております。

さて, 上述の通り総合型選抜が導入され4年経過しました。この春より第1期生が5年生となりますが, この度そのうちの1名が晴れてMD-PhD コースへ進学してくれることになりました。新しい仲間が増えることを同窓生一同大変嬉しく思っており, しっかりサポートしていきたいと考えております。

最後になりましたが, 今後も本コース発展のため尽力する所存でございますので, 変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本会開催にあたりご支援いただきましたAWAサポートセンター, 医学部教育支援センターの皆様 に心より御礼申し上げます。



徳島大学MD-PhDコース第8回近況報告会/同窓会集合写真

青藍会学生広報委員紹介

青藍会学生広報委員就任のご挨拶

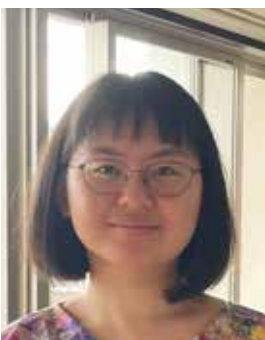
磯 村 勇 斗（医学科3年）



この度、青藍会学生広報委員に任命されました医学科3年の磯村勇斗です。月日が経つのは早いもので、徳島大学に入学してから2年が経過しました。オンライン授業が多く、学校に行く機会があまり得られませんでした。部活動を通して仲間と出会い、毎日が非常に充実しております。在校生と卒業された先生方の軌跡がつまっているこの青藍会会報の作成に関われることを大変ありがたく思っております。新型コロナウイルスによって中止を余儀なくされていた対面授業が、今年度より再開されることとなりました。それに伴い、学生行事も徐々に再開されると思われます。青藍会学生広報委員として具体的に何ができるかわかりませんが、学生と先生方の間を取り持ち、学生の今を届けることができればと思っております。微力ではありますが、青藍会の皆様楽しんでいただけるよう精一杯励みたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

青藍会学生広報委員就任のご挨拶

加 藤 胡都菜（医学科3年）



青藍会学生広報委員になりました、医学科3年の加藤胡都菜です。私が徳島大学に入学して、早いもので2年が経ちました。2年が経った今でも受験シーズンが近づくと、自分が受験生だった頃のことを思い出します。入学当初はこれから始まる大学生生活を楽しみに思う一方、初めての一人暮らしや先の見えないコロナ禍での生活に不安を覚えることも多くありました。私たちの学年はコロナが流行して1年後に徳島大学に入学したため、コロナ前の大学生生活を知る機会はほとんどありませんでした。2年生の前半まではそのほとんどがオンライン授業で、友達と会う機会もあまりなく、寂しい学生生活でした。そんな中始まった解剖実習は、久しぶりの仲間と意見を交わしながら同じ空間で受ける授業となり、感染対策を講じながら、制約がある中ではありましたが、仲間と協力し合いながら受ける授業にたくさんの刺激をもらい有意義な実習になりました。年が明け、2023年になり少しずつコロナ禍前の生活が戻り始めています。これからはコロナ禍で出来なかったことを行ったり、少なくなってしまった人と人との繋がりを取り戻していったりすることになると思います。そのような中少しでもその架け橋になるような青藍会会報になるように、微力ながら尽力していきたいと思っています。

青藍会の動き

青藍会出身教授一覧

(令和5年4月1日現在)

氏 名	期	大 学 名	講 座	氏 名	期	大 学 名	講 座
田村 禎通	17	徳島文理大学	理 学 療 法 学 科	井原 義人	36	和歌山県立医科大学	生 化 学
木内 淳子	18	滋慶医療科学大学院大学	医 療 安 全 管 理 学	田中 克哉	36	徳 島 大 学	麻酔・疼痛治療医学
東 敬次郎	26	徳島文理大学	看 護 学 科	岩田 貴	36	徳 島 大 学	医療系基盤教育
斧 康雄	27	帝京平成大学	健康メディカル学部	松崎 健司	36	徳島文理大学	診療放射線学科
川上 照彦	27	吉備国際大学	理 学 療 法 学 科	住谷さつき	36	徳 島 大 学	特別修学支援
下泉 秀夫	28	国際医療福祉大学	医 療 福 祉	上原 久典	36	徳 島 大 学	病 理 部
上田 夏生	29	香 川 大 学	生 化 学	岡本 康裕	36	鹿 児 島 大 学	小 児 科 学
宇野 昌明	29	川崎医療福祉大学	総合教育センター	栗飯原賢一	37	徳 島 大 学	実践地域診療・医化学
江原 寛昭	29	滋 賀 大 学	障 害 児 教 育	小山 文彦	37	東 邦 大 学	産業精神保健・職場復帰支援センター
横越 浩	30	四 国 大 学	生 活 科 学 部	川人 伸次	37	徳 島 大 学	歯 科 麻 酔 学
橋本 健志	30	神 戸 大 学	保 健 学 研 究 科	中村 教泰	38	山 口 大 学	器 官 解 剖 学
勢井 宏義	30	徳 島 大 学	統 合 生 理 学	遠藤 逸郎	38	徳 島 大 学	生 体 機 能 解 析 学
近藤 和也	30	徳 島 大 学	臨 床 腫 瘍 医 療 学	添木 武	38	徳 島 大 学	実践地域診療・医科学
安井 敏之	30	徳 島 大 学	生殖補助・更年期医療学	上村 浩一	38	兵 庫 県 立 大 学	保健医療福祉系
森 健治	30	徳 島 大 学	子どもの保健・看護学	友竹 正人	39	徳 島 大 学	メンタルヘルス支援学
石堂 一巳	31	徳島文理大学	健康科学研究所	桑原 知巳	39	香 川 大 学	分 子 微 生 物 学
上野 修一	31	愛 媛 大 学	精 神 神 経 科 学	前川 洋一	39	岐 阜 大 学	寄生虫学・感染学
赤池 雅史	31	徳 島 大 学	医 療 教 育 学	奥村 裕司	39	相 模 女 子 大 学	健 康 栄 養 学 科
鈴江 毅	31	静 岡 大 学	教 育 学 部	松浦 哲也	39	徳 島 大 学	リハビリテーション部
三上 靖夫	31	京都府立医科大学	リハビリテーション医学	井崎ゆみ子	39	徳 島 大 学	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門
原田 雅史	32	徳 島 大 学	放 射 線 医 学	大林 茂	39	埼 玉 医 科 大 学	リハビリテーション科
高橋 吉孝	32	岡 山 県 立 大 学	栄 養 学 科	埴淵 昌毅	39	徳 島 大 学	地域呼吸器・血液・代謝内科学
寶學 英隆	32	奈良先端科学技術大学院大学	保健管理センター	大塚 秀樹	40	徳 島 大 学	画像医学・核医学
川人 宏次	32	自治医科大学	心 臓 血 管 外 科	山田 博胤	40	徳 島 大 学	地域循環器内科学
楊河 宏章	32	徳島文理大学	看 護 学 科	和泉 唯信	41	徳 島 大 学	臨 床 神 経 科 学
吉栖 正典	33	奈良県立医科大学	薬 理 学	若林 英樹	41	三 重 大 学	家 庭 医 療 学
二川 健	33	徳 島 大 学	生 体 栄 養 学	漆原 真樹	41	徳 島 大 学	小 児 科 学
岡久 稔也	33	徳 島 大 学	地 域 総 合 医 療 学	大日 輝記	42	香 川 大 学	皮 膚 科 学
浦上 淳	33	川 崎 医 科 大 学	総合医療センター外科	滝沢 宏光	42	徳 島 大 学	胸部・内分泌・腫瘍外科学分野
坂東 良美	33	徳 島 大 学	病 理 部	加藤 剛志	42	徳 島 大 学	地域産婦人科診療部
山口 文徳	33	愛媛県立医療技術大学	生 体 機 能 検 査 学	居村 暁	43	徳 島 大 学	地 域 外 科 診 療 部
久保 宜明	34	徳 島 大 学	皮 膚 科 学	大藤 純	43	徳 島 大 学	救急集中治療医学
西岡 安彦	34	徳 島 大 学	呼吸器・膠原病内科学	堤 保夫	43	広 島 大 学	麻 酔 蘇 生 学
西良 浩一	34	徳 島 大 学	運 動 機 能 外 科 学	酒井 紀典	43	徳 島 大 学	地域運動器・スポーツ医学
橋本 一郎	34	徳 島 大 学	形 成 外 科 学	池田 康将	43	徳 島 大 学	薬 理 学
志馬 伸朗	34	広 島 大 学	救急集中治療医学	北村 嘉章	43	徳 島 大 学	耳 鼻 咽 喉 科 学
篠原 勉	34	徳 島 大 学	地域呼吸器総合内科学	池本 哲也	44	徳 島 大 学	安 全 管 理 部
田中 克浩	34	川 崎 医 科 大 学	乳 腺 甲 状 腺 外 科	石川 正和	44	香 川 大 学	整 形 外 科 学
高橋 章	35	徳 島 大 学	予 防 環 境 栄 養 学	伊藤 弘道	45	鳴 門 教 育 大 学	特 別 支 援 教 育
松田 純子	35	川 崎 医 科 大 学	病 態 代 謝 学	森岡 久尚	45	徳 島 大 学	公 衆 衛 生 学
相澤 徹	35	高知リハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部	岡田 賢	45	広 島 大 学	小 児 科 学
堀井 新	35	新 潟 大 学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	辻川 哲也	45	福 井 大 学	放 射 線 医 学
篠原 尚	35	兵庫医科大学	上 部 消 化 管 外 科	沼田 周助	46	徳 島 大 学	精 神 医 学
早瀬 康信	35	徳 島 大 学	地 域 小 児 科 診 療 部	吉川 幸造	47	徳 島 大 学	実践地域診療・医科学分野
安友 康二	36	徳 島 大 学	生 体 防 御 医 学	島原 佑介	47	東 京 医 科 大 学	心 臓 血 管 外 科
矢野 聖二	36	金 沢 大 学	腫瘍内科/腫瘍外科	岩佐 武	48	徳 島 大 学	産 科 婦 人 科 学

事務局からのお願い

◆ 個人情報の取り扱いについて ◆

平成17年から個人情報保護法が施行され、個人情報は厳重に取り扱うことが求められています。青藍会事務局におきましても、会員の個人情報は慎重に管理し、取り扱いにつきましては、細心の注意を払っております。従いまして、電話等での会員情報の提供につきましては、原則お断りさせていただいております。会員のプライバシー保護とトラブル防止のため、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。電子化の昨今ではございますが、会員名簿及び会報「会員の異動」を大いにご活用ください。

現住所および勤務先等に変更がございましたら、会報末尾に綴じ込みの「会員情報変更届」にてご連絡をお願いいたします。（青藍会ホームページ「会員のページ」からも入力可能です。）

◆ なりすましのニセ電話について ◆

「青藍会事務局の〇〇です。会費のことで・・・」という青藍会事務局事務員になりすましたニセ電話の事例が数件報告されております。過去には「青藍会の〇〇です。」「医学部第〇期卒の〇〇です。」「徳島大学の〇〇です。」「〇〇病院の〇〇です。」という同窓生や「青藍会のお荷物のことで・・・。」という宅配便業者になりすましたニセ電話の報告もございました。電話の内容によりますと青藍会に関する情報に詳しい場合がございます。青藍会では、突然の電話による会費のご案内や個人情報の照会はいたしておりませんので十分お気をつけくださいますようお願い申し上げます。勤務先及びご家族（帰省先）の皆様にも注意の呼びかけをお願いいたします。

くれぐれもなりすましのニセ電話にはご注意ください!!

様々な情報をお寄せください

青藍会ホームページには「お問い合わせ」を設けております。

- ・ 同窓会の開催の予定や案内、開催後のご報告
- ・ 同期の方の動向、慶弔、メディアにとりあげられたことなど（青藍会会員の先生がご逝去されました折には、物故者の項にてお知らせさせていただきます）
- ・ 青藍会に関するご意見など

会報やホームページにて情報発信していくことができれば幸甚に存じます。

青藍会事務局 seiran@tokushima-u.ac.jp

青藍会ホームページ



よろしくお願いいたします

投稿規定

広報委員会

○ 原稿について

- 必ず、文頭にタイトル、氏名・卒業期をご記載ください。
例 タイトル ○ ○ ○ ○ ○ ○ 山 田 太 郎 (医学部○期)
- 文字数は1,400字以内、写真は1枚でお願いいたします。
なお、写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。
- 英数字は半角文字で、カタカナは全角文字で入力してください。
- 原稿の文中に登場する氏名及び敬称については、スペースを入れずに記載してください。
(例 山田太郎君 高倉健さん 松下幸之助先生)

○ 原稿及び写真の送付について (青藍会事務局 seiran@tokushima-u.ac.jp)

- 原稿送付は、可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については、郵送にてお送りください。後日、返送いたします。
- 画像ファイルを送付される場合は、原稿とは別に、JPEG ファイル等でお送りください。
原稿 (Word 等) に貼り付けますと、画質が悪くなります。
なお、画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして1枚ずつに分けてお送りください。また、青藍会事務局からの連絡がなかった場合は、届いていないことが考えられますので、再度確認のご連絡をお願いいたします。

○ 原稿の締め切り日を厳守願います (次号102号の締め切り日は令和5年9月29日 (金) です)

会報の印刷および製本には、原稿をお預かりした後、ゲラ刷り作成、校正、修正、編集会議等で2ヶ月ほどの時間を必要といたします。

締め切り日より遅れた場合は、次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

- お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果、修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。
- 用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

- 広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後、製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので、著者校正をお願いいたします。
- 校正時の大幅な追記、削除等は、会報発行期日に影響いたしますので、ご遠慮くださいますようよろしくお願い申し上げます。

第40回青藍会・医学科講演会開催のお知らせ

第40回青藍会・医学科講演会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

日 時 令和5年10月20日（金）18時～20時

場 所 徳島大学藤井節郎記念ホール（蔵本キャンパス）

座 長 西岡 安彦 先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野教授）



講 師 高橋 淳 先生
京都大学 iPS 細胞研究所 所長

演 題 「iPS 細胞を用いた神経再生」

高橋淳先生ご略歴

1986年2月 京都大学医学部卒業
1986年4月 京都大学医学部脳神経外科研修医
1989年4月 京都大学大学院医学研究科博士課程入学
1993年3月 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
博士（医学）
1993年12月 京都大学医学部脳神経外科助手
1995年1月 米国ソーク研究所（Dr. Fred Gage）
ポストドク研究員
1997年1月 京都大学医学研究科脳神経外科助手（復職）
2003年8月 京都大学医学研究科脳神経外科講師
2007年4月 京都大学再生医科学研究所
生体修復応用分野 准教授
2012年7月 京都大学 iPS 細胞研究所
臨床応用研究分野 教授
2022年4月 京都大学 iPS 細胞研究所 所長（現在に至る）



講 師 高橋 政代 先生
株式会社ビジョンケア 代表取締役

演 題 「“世界初”に挑戦するということ」

高橋政代先生ご略歴

1986年3月 京都大学医学部卒業
1986年4月 京都大学医学部附属病院眼科研修医
1992年3月 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
1992年4月 京都大学医学部附属病院眼科助手
1995年1月 米国ソーク研究所研究員
1997年1月 京都大学医学部附属病院眼科助手（復職）
2001年10月 京都大学医学部附属病院探索医療センター開発部助教授
（－2006年9月）
2006年4月 理化学研究所網膜再生医療研究チーム チームリーダー
2012年4月 同研究所網膜再生医療研究開発プロジェクト
プロジェクトリーダー（－2019年7月）
2019年8月 株式会社ビジョンケア代表取締役社長（現在に至る）



最新の情報につきましては青藍会ホームページをご覧ください。

青藍会ホームページ

<https://www.seirankai-tokushima.jp/>

共 催 青 藍 会
医 学 科

編集後記

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが令和5年5月8日から、季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行しました。感染対策は個人や事業者の判断に委ねられ、3年以上にわたった対策は有事から平時への対応に大きく転換しました。新型コロナウイルス感染症が流行し始めた当初、蔵本キャンパスでは、講義は基本的にオンラインとなり、臨床実習をはじめとした様々な実習も制限を受けた中、学生もわれわれも対応してきました。今年度からは対面授業が基本となり、病院実習も対策をとりながら可能な範囲で実施できるようになっています。徐々にキャンパスに活気が戻ってきており、「やっぱり、対面はいいなあ」と思っています。学会の開催形態もwebと現地のハイブリッド開催という今まであまり馴染みのなかったものが登場しましたが、期間中であれば興味ある内容をいつでも何度でも視聴できる、という大きなメリットも生まれました。

今回の青藍会会報は第101号で、前回の第100号記念号から次の100号への第一歩となります。青藍会の先生方にはそれぞれのお立場で、これからも青藍会にお力添えくださいますようお願い申し上げます。準会員のみなさん、めでたく卒業される日を待ちます。

大塚 秀 樹（医学部40期）

編集 広報委員 橋本 一郎（34期） 大塚 秀樹（40期） 工藤美千代（33期） 高橋 浩子（34期）
田中 克哉（36期） 板東 浩（27期） 森岡 久尚（45期）
学生委員 磯村 勇斗（医学科3年） 加藤胡都菜（医学科3年）

非 売 品

青 藍 会 会 報 第 101 号

令和5年6月2日印刷
令和5年6月9日発行

発 行 徳島大学医学部医学科同窓会青藍会
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15
電話 (088) 633-7109 (内線2601)
FAX (088) 633-3180 (青藍会事務室)
E-Mail seiran@tokushima-u.ac.jp
URL <https://www.seirankai-tokushima.jp/>
振替 01680-4-8671
ゆうちょ銀行 一六九店 (169)
当座 0008671 青藍会

発 行 者 青藍会会長 荒 瀬 誠 治

印 刷 所 グランド印刷株式会社

徳島市万代町6丁目20-15 電話 (088) 622-8448
